

管内地域磯焼け対策意見交換会を開催しました

小樽開発建設部 小樽港湾事務所 第2工務課

11月17日(木)、管内地域磯焼け対策意見交換会をweb形式にて開催しました。後志振興局管内の3町1村と寒地土木研究所水産土木チーム及び小樽開発建設部より、全28名の参加となりました。

寒地土木研究所からは、水産土木チームの稲葉研究員が「藻場を活用した赤潮・貝毒発生予防に関する研究」について発表されました。藻場に生息する微生物が赤潮の原因生物の増殖を抑える能力をもつ事が分かってきている事や今後、実際に藻場を活用し赤潮発生の抑制に取り組む上での課題、そして、今後、藻場を活用し赤潮が発生しにくい環境をつくっていくことが、持続可能な水産業の確立には重要であると説明されました。

小樽開発建設部からは、小樽港湾事務所第2工務課の佐藤事業専門官が「漁港静穏域の高度利用についてー有用水産物(ウニ)の蓄養計画ー」を発表しました。2016年より古平漁港において進めてきた、キタムラサキウニの蓄養施設の検討として、蓄養のコンセプト、試験の概要と結果、今年度の蓄養計画書のとりまとめ等について報告しました。

次に各地域における取り組みとして、古平町からは産業課の山本水産係主任が「今後の藻場保全活動」を発表されました。古平町の群来地先海域において、ウニの密度管理を行うための空ウニの採捕、海藻の生え

やすいロープの海中設置、海藻に栄養を供給するビバリーユニットの設置概要が報告されました。

積丹町からは、農林水産課の槇野主査が「ウニから始まるSDGs～持続可能な地域社会の実現に向けて～」を発表されました。磯焼けに悩む美国漁港及び余別漁港において、「海の森づくり～藻場造成活動～」と題して、ウニ除去、母藻の種まき、施肥による栄養塩供給、モニタリングによる効果の確認が紹介されました。その他の取り組みとして、養殖コンブの生産、ウニ殻再利用によるコンブの増産、ウニ殻による施肥の開発などが紹介されました。

神恵内村からは、産業建設課の吉野水産農林係長が「北海道神恵内村ウニ養殖取組み紹介」を発表され、神恵内村ウニ養殖事業の概要、体制と目的、及び今後の着手を目指すウニの陸上養殖事業が紹介されました。

寿都町からは、産業振興課の櫻井水産係主任が「寿都町における施肥事業」を発表され、磯焼け対策として行った施肥事業の始まりとこれまでの取り組み、空撮による施肥効果の検証と課題が発表されました。

その後、意見交換を行い、各参加者からは取り組み効果の確認や、今後の現地調査の進め方に対する意見が出され、今後の磯焼け対策を進める上での大変有意義な会議となりました。

